

おはようございます。蒼山会総会に今日はたくさんの方々にお集まりいただき、ありがとうございます。今は梅雨の季節で、紫陽花の花が色とりどりに咲いています。梅雨の季節を彩る日本から世界に広まった花で、原種は地味なものです。オタクサの名で西洋に伝えられたのち、さまざまの園芸種になって世界中に伝わりました。もう一つ、今の季語で知られているのは、甘酒であります。点滴とほぼ同じ成分を持つ、これも日本古来の栄養ドリンクで夏の季語となっています。夏ばてを防ぐとともに、美白作用があるとされています。

さて、昨年度の京都府の大学生は、166554人、2009年度に比べて、約350人増えています。これは少子化と言われる中で、全国的な傾向です。また、外国人留学生も3年間で、京都府では、5377人から、6900人に増えました。先日、留学生の交流会を開催しましたが、本学でも多くの留学生がいて、学生間の国際交流が盛んです。

教育再生実行会議が提出した、第三次提言「これからの大学教育の在り方について」の「はじめに」の部分では、「個人の能力を最大限に引き出し、一人一人が国家社会の形成者として社会に貢献し責任を果たしながら自己実現を図り、より良い人生を生きられる手立てを提供するという教育の機能」、「教育を集大成し社会につなぐという大学の役割は決定的に重要」、また「知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤」とされ、「教育・研究機能を質・量ともに充実していく必要があります」と書かれています。

この「質・量ともに充実」という表現は、今までは「質の充実」と言われていたことからの大きな変化です。さらに、最後の部分では次のように記されています。

「我が国の高等教育の大部分を担っている私立大学が、多彩で質の高い教育を展開するとともに、グローバルな視野を持つ地域人材の育成や、飛躍的に増大する社会人の学び直しに積極的に対応できるよう、国は、財政基盤の確立を図る」、「また、大学設置基準等の明確化や大学設置審査の高度化、必要な経営指導・支援や改善の見込みがない場合の対応など、大学教育の質を一層保証する総合的な仕組みを構築する」と書かれています。

さらに、中教審答申にみる高等教育の役割では、2012年8月に、「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」の内容が重要です。

このような国の新しい方針を踏まえながら、本学では、今、大きな教育改革に取り組んでおり、その内容を今日の集まりでは、具体的にご理解いただきたく存じます。

お気づきになったと思いますが、人間館1階に本学の基本理念が、新しく黒御影石に刻まれて、通学する学生たちに見ていただいています。そこにある、宇宙の神秘、地球の偉大さを意識しながらの芸術活動に、私自身もこの3ヶ月あまり参加してきました。実に活動的な学生さんたちの活躍を、また優れた指導者たちの実行力に触れて、毎日何かに感銘を受けるという経験でありました。

学生さんたちからは、この間、多くの具体的な提案をいただきました。最近、学長の招待する朝食会を3回開催しましたが、合計60人の学生たちと、8時15分から学食でともに朝食をいただきながら話すことができました。そこでも、霊長類研究所へ見学に行く企画、花折断層を歩く企画、大学の設備の改善への意見など、たいへん活発な議論もありました。

蒼山会の活動は、このような学生たちの課外活動へのご支援、就職活動へのご支援、福利厚生面のご協力など多岐にわたるものであり、学園生活を幅広く充実したものに保つ役割を持っています。本日の総会での事業報告、事業計画、決算、予算の討議を通じて、保護者の皆さまのご意向を反映しつつ、さらなる活発な事業が展開されるよう願って、私のご挨拶といたします。

ありがとうございました。